

Title	育児環境改善サービスを提供するビジネスモデル構築の研究 - 専業主婦の育児ストレス軽減を目指して -
Sub Title	
Author	渡邊, 絵里子(Watanabe, Eriko) 柳原, 一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2102号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2102">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2102</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	柳原研究会	学籍番号	80431069	氏名	渡邊 絵里子
(論文題名)					
育児環境改善サービスを提供するビジネスモデル構築の研究 —専業主婦の育児ストレス軽減を目指して—					
内容の要旨)					
<p>現在の日本における極めて重要な社会問題の一つとして、少子化が挙げられる。少子化現象は1970年代半ば以降続いており、未だに歯止めがかかっていない。昨年2005年末には日本の人口が始めて減少し、まさに人口減少社会に突入したのである。</p> <p>少子化問題は国民の関心も極めて高く、いかにこの問題に対応していくかが、将来の日本の明暗を分ける重要な課題といえるだろう。我々の次なる世代により良い日本社会を継承していくためにも、少子化、そして人口減少社会をどう考え、将来の我が国社会のあるべき姿を描いていく事は、最終的には国民選択であると同時に我々国民1人1人の責任であるといえよう。</p> <p>本修士論文では、少子化に歯止めをかけるためにも、育児環境整備が非常に重要な点と捉え考察を加えた結果、「育児中の専業主婦に対する育児環境の社会的未整備」が課題として抽出された。ここにビジネスチャンスを見出し、専業主婦が利用しやすい託児所ビジネスの構築を試みた。現状では託児所やベビーシッターといった保育サービスの利用は浸透していない。その理由としては、価格の問題が大きいことが分析の結果から得られた。この問題を解決するために、百貨店を間に入れたビジネスモデルを構築し、収益性の考察をおこない、様々な条件を整えば十分に成り立つモデルであるという結果が得られた。</p>					